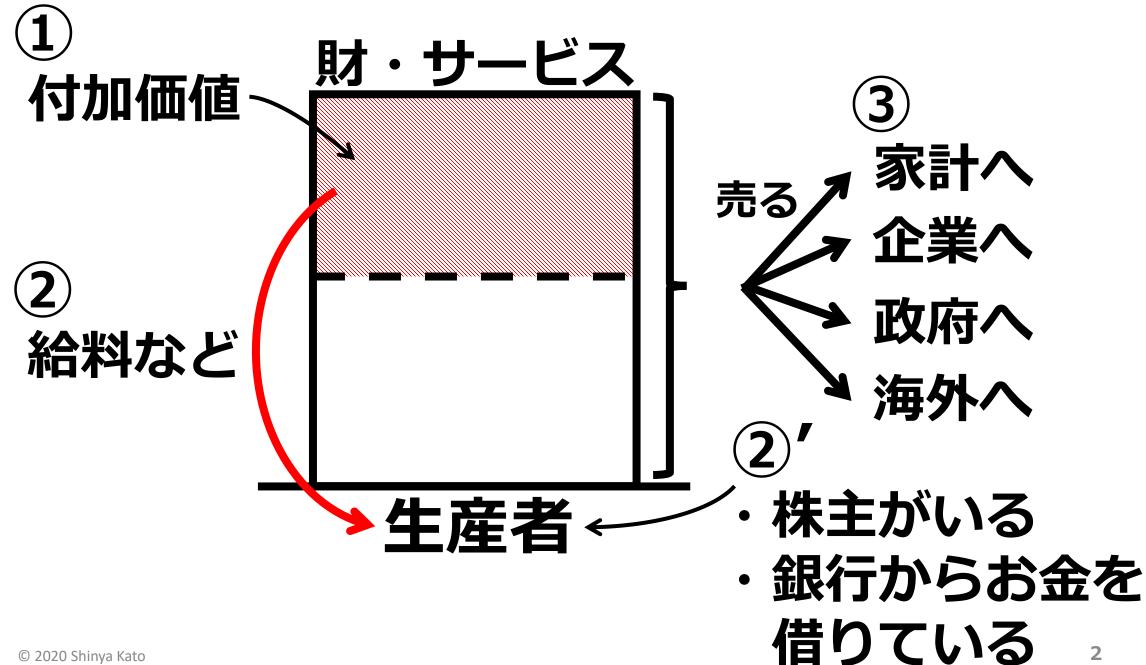
はじめよう経済学第9講三面等価の原則

講師:加藤 真也

今回(第9講)は…

- ・三面等価の原則
- ・45度線分析への準備
- ・消費関数・投資・政府支出



- 1 生產国民所得
 - 一付加価値総額(GDP)
- 2 分配国民所得
 - =給料など
 - =賃金+利子+内部留保など

/ 5~7割 · **配当** 社内に残すお金郷保保など

来年のために

消費 C: Consumption 投資 I: Investment 政府支出 G: Government expenditure 公共事業

- ③ 支出国民所得
 - =家計が買う額 (消費 C)
 - +企業が買う額(投資I)

機械設備を

+政府が買う額 (政府支出G)

+外国人が買う額 (純輸出NE)

一売れ残る分 (在庫品増加)

$$=C+I+G+EX-IM+(\overline{4})$$

三面等価の原則

生產国民所得 一分配される 一分配国民所得 二支出国民所得

生産されたものは 必ず需要される

・ 45度線分析への準備

国民所得をYとおく

Yield: 生み出す

総供給 Y^S — 国民所得Y

© 2020 Shinya Kato

総供給YS

: 国内で生産される財の供給

総需要 Y^D

:国内で生産される財への需要

ポイント

YDには在庫品増加が 含まれないので、常に $Y^S = Y^D$ (財市場が均衡) になるとは限らない

まとめ

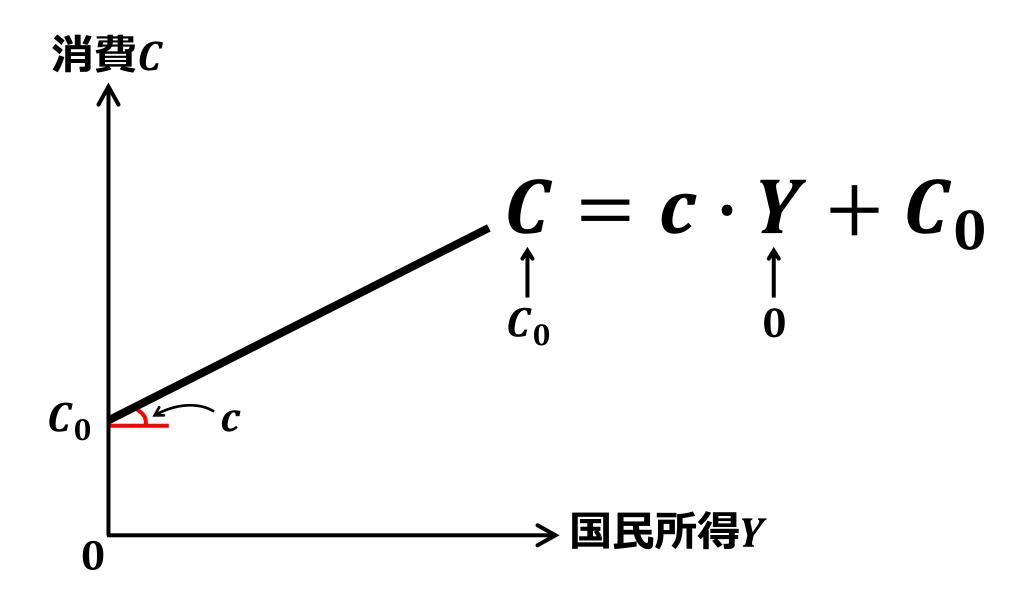
$$Y^S = Y$$
 $Y^D = C + I + G(+EX - IM)$ 簡単化のため省略

· 消費C

$$Y^D = C + I + G$$

ケインズ型消費関数

$$C = c \cdot Y + C_0$$



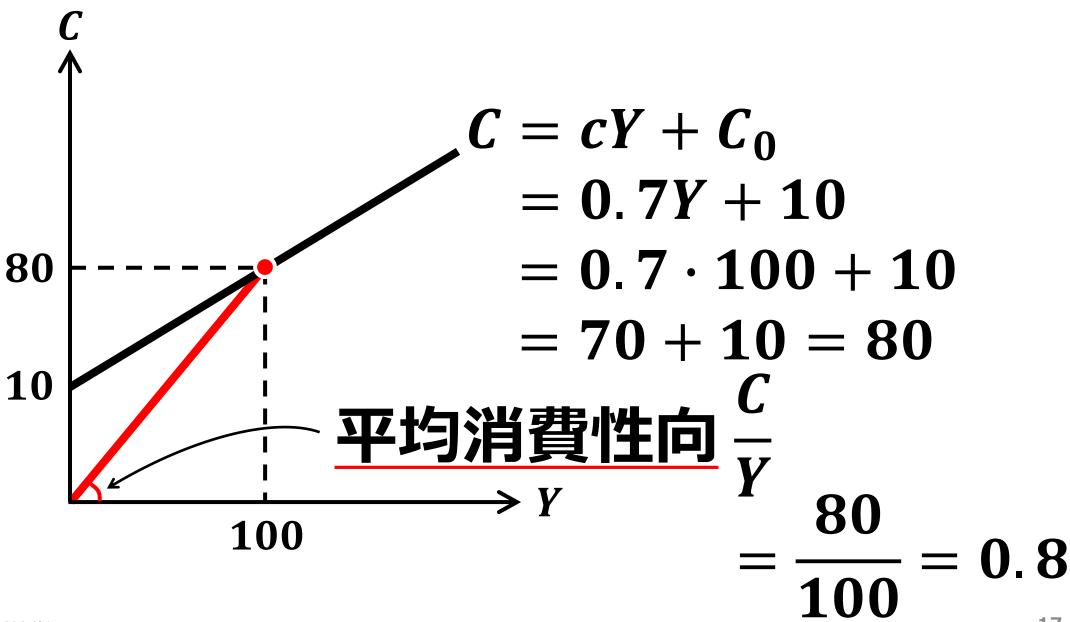
© 2020 Shinya Kato 15

限界消費性向c(0 < c < 1)

: Y(所得)が1だけ増加 したときに増えるC(消費)

基礎消費 C_0 (定数)

: 所得ゼロでも最低限 必要な消費



© 2020 Shinya Kato

· 投資I

$$Y^D = C + I + G$$

ポイント

経済学では、生産のための 機械・建物などの設備を 増やすことを投資という

⇒株式投資を投資/に含めない

ここでは、 Iを定数としておく → 後のIS – LM分析では バは定数ではなくなる

·政府支出G

$$Y^D = C + I + G$$

ポイント 政府が公共事業をすれば *G*↑となる

ここでは、 Gを定数としておく → 後のIS – LM分析でも Gは定数である

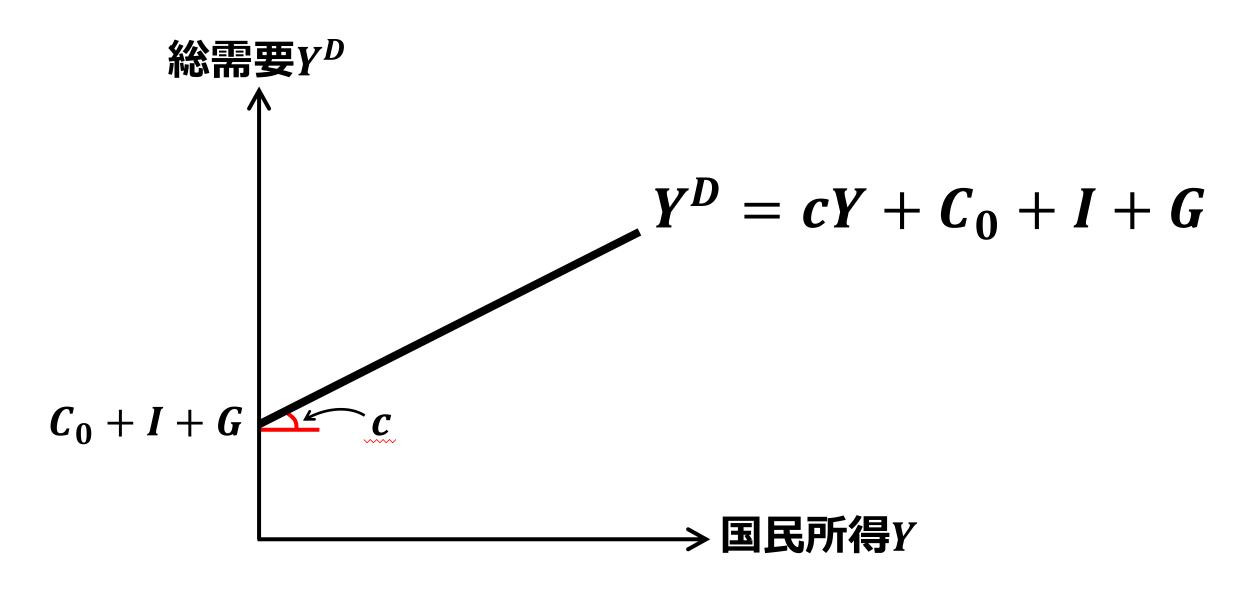
したがって、

$$Y^D = C + I + G$$

$$= (cY + C_0) + I + G$$

$$= cY + C_0 + I + G$$
傾き 切片

© 2020 Shinya Kato 22



© 2020 Shinya Kato 23

例題

$$Y^D = C + I + G$$
 $C = 0.8Y + 10$
 $I = 20, G = 15$
のとき、

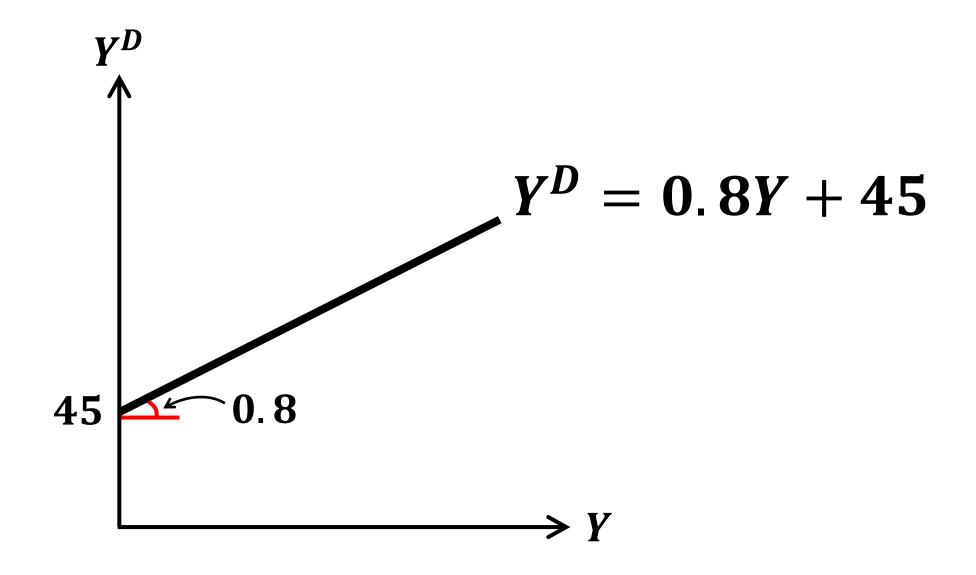
- (1) 平均消費性向の式を求めなさい
- (2)Y^Dのグラフを書きなさい

解答

(1)
$$\frac{C}{Y} = \frac{0.8Y + 10}{Y} = 0.8 + \frac{10}{Y}$$

(2)
$$Y^D = C + I + G$$

= $0.8Y + 10 + 20 + 15$
= $0.8Y + 45$



© 2020 Shinya Kato 26

次回(第10講)は…

- ・45度線分析に入ります
- ・有名な「有効需要の原理」や 「乗数効果」を学びます